



私の研究

シダ植物の倍数性複合体の起原を求めて

まつもと さだむ

松本 定

国立科学博物館植物研究部多様性解析・保全グループ（筑波実験植物園）研究主幹

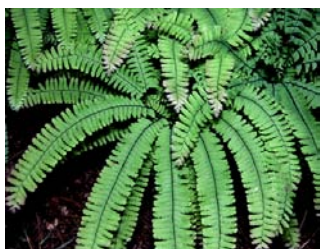
昭和22年 静岡県 生まれ
 48年 静岡大学教育学部生物学教室教務員
 54年 筑波実験植物園研究官

1. 南伊豆のシダ植物調査を始める（静岡県立下田北高校）
 中学校の笹本岩男教諭の勧めで日本シダの会入会、野外調査を通して、伊藤洋、倉田悟、志村義雄各教授と知り合う



シモダカナワラビ (*Arachniodes* × *sasamotoi* Kurata) の発見

2. *Adiantum* 属の染色体研究（東京農業大学農学科有種学研究室卒論）
 小石川植物園でアジアンタムの孢子を譲り受け4年間で成熟させ観察



クジャクシダ
 南アルプス産 N=60 (4倍体)
 関東では2倍体が知られていた

3. 日本産イノモトソウ群とオオバノイノモトソウ群の細胞遺伝学的研究（同大学院修士論文）
 自然雑種と無配生殖に注目し、種ゲノム推定から種分化を研究



オオバノイノモトソウ
 2倍体無配生殖型

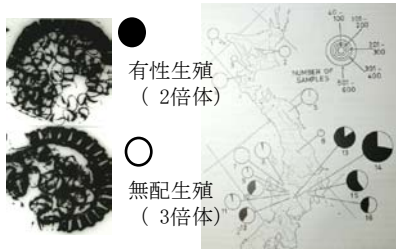


カシワギイノモトソウ *Pteris* × *matsumotoi* Kurata (ヒメイノモトソウ×イノモトソウ) の減数分裂

4. ミヤマワラビの2生殖型の東日本における分布パターン
 有性生殖型（2倍体起原型）が中部日本の針葉林帯に残存



孢子嚢

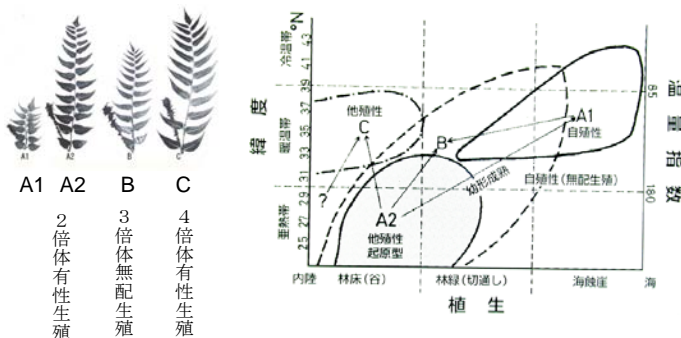


有性生殖
 (2倍体)

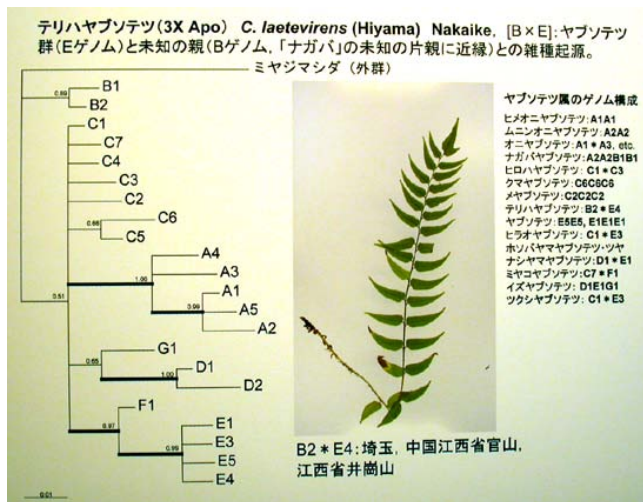
無配生殖
 (3倍体)

5. 日本列島におけるオニヤブソテツ複合種の生殖様式に関する種生態学的研究（2002, 東京農業大学博士論文）

筑波実験植物園で長年かけて全国から収集、栽培、交配、配偶体の直接観察による生殖様式の遺伝、科博の押し葉標本の利用により種の分化の実態を明らかにした。A1, A2, B型はそれぞれAA, AA, AAAと同質, C型はAABBの異質ゲノム



6. ヤブソテツ属無融合性複合体のゲノム構成（松本・海老原, 2007）
 DNA分析とプロイディーアナライザーにより日本産ヤブソテツ属全種類のゲノム構成が1年足らずでほぼ明らかになってきた



7. 国立科学博物館叢書8「南太平洋のシダ植物図鑑」を出版、日本シダの会と共同執筆（2008）

8. 今後の予定など

- ・データベース：南太平洋のシダ・台湾のシダ
- ・ブータンのシダ植物チェックリスト（ブータン標本館，エディンバラ植物園と共同）
- ・収集と保全：絶滅危惧シダ植物などシダ園，カザグルマなどクレマチス園等の充実，筑波山の植物，山地草原，岩礫地，砂礫地，特に伊豆須崎の海岸植物の保全と教育普及